

かながわの地域日本語教育

令和 4 年度事業の方向性（案） について

神奈川県国際文化観光局国際課

令和 3 年 8 月 31 日

かながわの地域日本語教育の現状

現状・課題

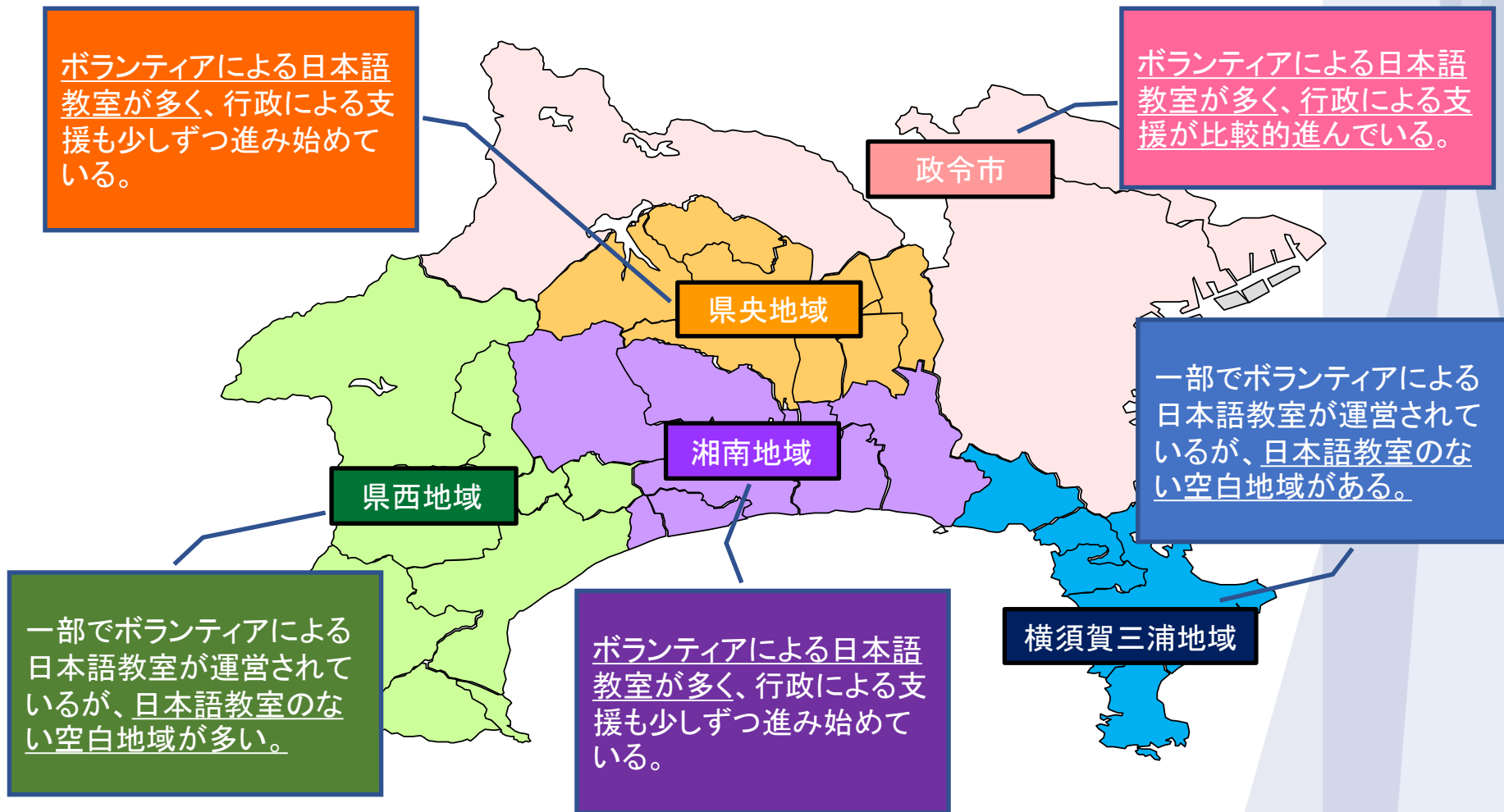
- 指導方法や水準にばらつきがあるなど、ボランティアが日本語初心者に教えるのは難しい。
- ボランティアによる日本語教室は、担い手の不足・高齢化、学習ニーズの多様化、教室の場所の確保が困難等、多くの課題を抱えている。
- 外国籍県民等のニーズを十分に把握できていない。
- 施策を行うためのノウハウや財政面などに課題がある。
- 外国籍県民等へ日本語学習に関する情報が届いていない。

必要な施策

- ◆ 専門家による初心者向け日本語講座開催の促進
- ◆ ボランティアによる日本語教室への支援
- ◆ 市町村へのノウハウの提供や財政的支援
- ◆ 外国籍県民等への日本語学習の場や手段の情報提供

県の継続した支援・取組が必要

地域日本語教育の各地域の状況



地域によって外国籍県民等への日本語教育支援に偏りがある

神奈川県 の 役割

期待される役割

「かながわの地域日本語教育の施策の方向性」より

県・かながわ国際交流財団

- 国の政策と各市町村や地域の実情に応じた調整・支援
- 広域で行うべき人材育成、ネットワークづくり
- 地域日本語教育に関する情報の収集と提供、相談対応
- 県民の多文化理解の推進 等

市町村・市町村国際交流協会

- 外国籍県民等の日本語教育ニーズの把握
- 地域の実情や生活ニーズに合わせた日本語教育の実施
- ボランティアによる日本語教室への支援
- やさしい日本語の普及など市民への啓発

県に期待される役割とともに、市町村に期待される役割についても地域によって偏りがあるため、県がフォローしながら進める

令和4年度事業の方向性(案)

専門家による初心者向けの日本語講座の促進

継続

県がモデル事業を実施し、ノウハウを蓄積。

継続

市町村と連携しながら、一部の講座は実施地域の見直しを行う。

※ 地域の実情に応じた講座の組み立て

(期間・頻度・レベル、生活オリエンテーション等)が必要

継続
(充実)

オンライン講座は、引き続き実施し、更に空白地域への周知を強化。

※ 日本語教室のない空白地域にも対応

令和4年度事業の方向性(案)

ボランティアによる日本語教室への支援

継続

市町村が実施する日本語ボランティアの養成・研修等に対し、引き続き、プログラムの提供・講師派遣等の支援を行う。

継続
(充実)

コロナ禍で休止中の日本語教室へのきめ細かいサポートの実施。
※ オンライン化への対応等(地域コーディネーターの活動を通じて)

継続

日本語教室の実践者(リーダー的人材)を対象とした研修を実施し、教室間・地域間のネットワークづくりを支援。

令和4年度事業の方向性(案)

市町村へのノウハウの提供や財政的支援 ①

継続
(充実)

市町村補助金による財政支援を行う。

※ 地域の実情に応じた市町村における日本語教育事業の拡充

継続

市町村における実態把握・ニーズ調査を引き続き支援。

※ 地域日本語教育の早期進展につなげる

継続

市町村主催型講座の開設・運営改善等に対し、引き続き、

講座の企画やカリキュラム作成、運営改善などの支援を行う。

令和4年度事業の方向性(案)

市町村へのノウハウの提供や財政的支援 ②

継続

市町村が実施する日本語ボランティアの養成・研修等に対し、引き続き、プログラムの提供・講師派遣等の支援を行う。(再掲)

継続

市町村等連絡調整会議を引き続き開催し、県・市町村等間の連携強化を図るとともに、県内の日本語教育に係る取組の底上げを図る。

※ 日本語教育に関する先進事例の情報共有や意見交換等を実施

継続

市町村・市町村国際交流協会職員を対象とした研修を引き続き開催。

令和4年度事業の方向性(案)

外国籍県民等への日本語学習の場や手段の情報提供

継続
(充実)

市町村等のホームページへの情報掲載やオンライン講座の周知等、外国籍県民等に必要な情報が伝わるよう、働きかけを強化。
(地域日本語教育コーディネーターの活動を通じて)

継続
(充実)

日本語学習支援に係る相談対応やポータルサイト(「かながわでにほんご」)での情報提供の充実。

継続

日本語教育に関する理解や関心を深めるフォーラムの継続開催。

コーディネーターによる支援

継続

総括コーディネーター(1名)・地域日本語教育コーディネーター(4名)
を引き続き配置。

※ 各地域のニーズや実情に応じた日本語教育施策の実施に向けた支援・調整を行い、県に期待されている役割を果たす